



沖縄文学の魅力について語る
マルツエル・コニーチェクさん
（沖縄特集編集責任者）

「プラグ」誌で、沖縄文學特集を企画した編集責任者のマルツエル・コニーチェクさん。彼は、沖縄文學の歴史や文化について、多くの論文や研究をしていました。特に、「日本の文學」、「沖縄文學」、「琉球文學」などについて、博士論文で詳しく分析していました。

「沖縄文學に興味を持ったきっかけは、留学した東京大学で『現代日本文學』における想像的な要素について、博士論文を書いたときに、『沖縄文學』に対する興味が消えなかった。私の博士論文では、その時代の作品分析を基づいて、『沖縄文學』の非日常・非現実的な動きとを緻密なアリストで表現

する技術』の文脈で、参考文献を探していた時に、目次に「水滴の主人公の徳正」と妻の沖縄戦直後の描写が、客観的なつながりなどについて書かれていました。

「沖縄文學に興味を持ったきっかけは、留学した東京大学で『現代日本文學』における想像的な要素について、博士論文を書いたときに、『沖縄文學』に対する興味が消えなかった。私の博士論文では、その時代の作品分析を基づいて、『沖縄文學』の非日常・非現実的な動きとを緻密なアリストで表現

することになった。国立カレル大

学校で教えた標榜語は

ドイツ語だけで、さもさまな運動や政治家の努力のおかげで、チエコ語が生き残ったのです。

つまり、チエコも植民地状態

で、チエコ語が生き残ったのです。

チエコ語が生き残ったのです。

チエコ語が生き残ったのです。